

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320004

研究課題名(和文) ケアの現象学の具体的展開と組織化

研究課題名(英文) A concrete development and organization of the phenomenology of caring

研究代表者

榊原 哲也 (Sakakibara, Tetsuya)

東京大学・人文社会系研究科・教授

研究者番号：20205727

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、多様なケアの領域における個々の事象に即した「ケアの現象学」の「具体的展開」を目指すとともに、個々のケアの現場との連携を進めることによって、理論と実践の両面にわたる「組織化」を図ることを目的とするものであったが、研究代表者および研究分担者の個別研究とそれに基づいた共同研究によって、医療、看護、社会福祉、理学療法の各分野について、具体的な事象そのものの方から「ケアの現象学」を立ち上げ、「具体的展開」を図るといふ本研究の目的は、ある程度まで達成された。また、理論と実践とをつなぐ「ケアの現象学」の「組織化」についても、限られた範囲においては、ある程度達成されたと判断される。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research project was a concrete development of the phenomenology of caring based on the individual phenomena taken from a variety of areas of care, and an organization of the phenomenology of caring connecting both sides of theory and practice by cooperating with the fields of care. Through individual and collaborative studies of the research members, a concrete development of the phenomenology of caring in each field of medical care, nursing, social welfare, and physiotherapy has been accomplished to some degrees. An organization of the phenomenology of caring has been also achieved to some extent even in a limited region.

研究分野：哲学

キーワード：ケアの現象学 看護実践 緩和ケア 訪問看護 ACT(包括型地域生活支援プログラム) 哲学的対話実践 社会福祉 リハビリテーション

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した平成 24 (2012) 年当初、看護研究や看護実践の現場においては、質的研究の一つの方法として、「現象学的」研究が注目されるようになってすでに久しい状況であった。けれども、現象学そのものが歴史上、多様な展開を辿ったのと同様に、これらの研究も多様であり、その方法論も容易には見通せない状況であった。

ケアの領域でのこうした現象学への関心の高まりに応じて、わが国では 2000 年代以降、哲学とりわけ現象学研究者の側でも、これらの質的研究に対する関心が高まってきていた。看護および哲学系の学術雑誌において当時、看護やケアの営み一般への現象学的アプローチの可能性やその方法論をめぐる特集、対談がいくつか組まれていたこと(『緩和ケア』17(5), 2007、『現代思想』38(12), 2010、『看護研究』44(1), 2011)は、その一つの証左であったと思われる。

本研究の代表者・榊原は、そのようななか、平成 21 (2009) 年度から、現象学と看護学の研究者が共同し、社会福祉や理学療法の研究者も加わった 3 年計画の上述の科研費(基盤研究)プロジェクト「ケアの現象学の基礎と展開」を組織し、研究代表者として「ケアの現象学」の哲学的基礎づけと展開に従事した。しかし、研究を遂行するなかで新たな課題も浮かび上がってきた。それは、現象学自体が元来、事象そのものの方から記述によって哲学的思考を立ち上げ、事象に即して方法を見定め、さらに事象に即して絶えず理解を更新し、結果として事象の異なりに応じた多様な現象学を展開してきた以上、「ケアの現象学」も、ケアの営みという事象そのものの方から記述を立ち上げ、方法を規定し、ケアにおける多様な事象に即した現象学的記述を行っていかざるを得ないということ、そうした地道な作業の中からは、「ケアの現象学」の具体的展開と方法論の明確化は望めないということであった(榊原哲也「現象学的看護研究とその方法」、『看護研究』44(1), 2011)。以上が、本研究開始当初の背景であった。

2. 研究の目的

本研究は、看護を中心に医療・介護・社会福祉・教育など広く「ケア」に関わる領域において注目を集めている「ケアの現象学」について、個々の事象に即したその「具体的展開」とそれに基づいた方法論の明確化を図ること、ならびにケアの現場との連携を進めることによって、理論と実践の両面での「組織化」を図ることを目的として開始された。

3. 研究の方法

本研究では、研究代表者および分担者が現象学、看護学、社会福祉、理学療法等の各専門領域において行う個別研究と、共同で行う研究会活動とを並行して遂行していく方法を取った。個別研究では、研究代表者及び分

担者の専門領域に応じて、現象学的哲学や現象学的な質的研究の内容と方法論の吟味、看護、社会福祉、理学療法等の領域での調査に基づく具体的な質的研究が行われ、また共同の研究会では、研究代表者や研究分担者の個別研究の検討が行われたり、プロジェクト外の研究者や医療や福祉の現場従事者を招いての研究交流が行われ、それらを個別研究にフィードバックすることによって、「ケアの現象学」の「具体的展開」が目指されるとともに、理論と実践の両面にわたる「組織化」が図られた。

4. 研究成果

(1) 個別研究

代表者・榊原哲也は、フッサール現象学の視点からケアの志向性の構造を明らかにした上で、腎不全医療に従事する看護師数名へのインタビューを通じて彼らの経験を現象学的に解明した。またそれをもとに、「向き合い寄り添うケア」の原理的解明を行うとともに、クリティカルケアと透析ケアの具体的構造を明らかにし、看護系、医学系の学会での発表を通じて、現場への還元を行った。分担者・西村ユミは、看護師たちの協働実践をフッサールの志向性概念を手がかりに捉え直し、現象学の概念が、具体的なケアという(協働)実践の探究において、いかなる機能を持ちうるのかを検討した。また病院の看護管理部門における「管理」の実践を調査するとともに、現象学的研究方法の特徴や課題を考察し、ある場面や個別の経験がもつ普遍性について考察した。分担者・守田美奈子は、緩和ケア病棟の看護師9名に実施したインタビューデータをもとに、緩和ケア病棟における治療の意思決定に関する看護師の経験について分析・検討し、告知をめぐる医師と家族の面談場面における認定看護師の実践や急性期病棟での緩和ケアの看護師の実践について現象学的分析を行った。また代表者榊原とともに、腎不全医療現場で働く看護師の経験の現象学的分析を行った。分担者・和田渡は、自身の教育実践の現象学的な反省と教育に関する文献研究にもとづき、教育におけるケアの問題と、教師と学生の関係に伴う諸問題について考察をすすめ、大学生の自己成長を促すような教育的ケアの在り方と、教員自身がセルフケアを通じて教育に関わる在り方とを相互に関連付けて考察した。分担者・浜渦辰二は、地域における医療・看護・介護・福祉の専門職と患者・施設利用者・家族を含めた一般市民との対話のなかから、ケアをめぐる問題を汲み上げ、現象学的記述というミクロな次元から、ケアを取り巻く状況・組織・システムといったマクロな次元まで射程に入れた考察を行った。分担者・村上靖彦は、訪問看護など数名の看護師にインタビューを取り、口頭発表

と論文でその分析を発表するとともに、精神医学領域での参与観察、看護師への聞き取り調査により、事例研究およびケアの現象学の方法論の再検討を行った。さらに精神科病院、精神科訪問看護、(身体疾患の)訪問看護ステーションにおいて看護実践の参与観察およびインタビューを行った。分担者・福田俊子は、精神保健福祉領域のソーシャルワーカー13名にインタビュー調査を実施し、社会福祉現場の構造を明らかにし、専門家が要請されるプロセスを現象学的に考察した。分担者前野竜太郎は、末期がん患者に10か月間向き合い、家族としてできるケアを行う当事者として、ケアの本質を明らかにしようと試みるとともに、重症心身障がい児へのリハビリテーションにケアの現象学的方法論を用いることが可能かを研究した。分担者・西村高宏は、現象学的社会学関連の文献研究を軸に障害者に関するケアのあり方について考察を進めるとともに、東日本大震災後に自らが実践してきた仙台における哲学カフェについて、その経験を分析し、さらに「震災と専門職」を切り口に、医療従事者とともにケアに関する「哲学的対話実践」を複数回にわたって行った。分担者近田真美子は、ACT(包括型地域生活支援プログラム)を実践しているスタッフへの参与観察、インタビューを行い、重度の精神障がい者を地域で支えるケアのなかで患者との関係性を作っていく看護実践の構造を現象学的に明らかにした。分担者小林道太郎は、フッサール現象学と看護研究の関係について検討し、実践の場における看護師の状況認識・判断とその習熟について現象学的記述の可能性を探るとともに、看護師へのインタビュー調査を実施し、現象学的分析を行うことにより、看護実践に含まれる看護師の志向の特徴を明らかにした。

(2) 共同研究

以上の個別研究と並行して、平成24年度に計2回、平成25年度は計4回、平成26年度は計3回、計9回の共同研究会(「ケアの現象学」研究会)を行い、各自の研究を互いに検討し合うことによって「ケアの現象学」のいっそうの「具体的展開」に努めた。また研究会を一般参加者に公開とすることで、メンバー外の研究者や現場のケア従事者との交流を行い、「ケアの現象学」の理論と実践両面での「組織化」を図った。

さらに最終年度の平成26(2014)年12月21日には、東京大学本郷キャンパスにおいて、科研費「現象学的看護研究の方法論の確立」(代表:松葉祥一氏)と合同で、ケアの現象学の方法と実践に関する一般向けのセミナーを開催し、研究の社会への還元を図った。このセミナーでは、本研究の分担者村上靖彦、

福田俊子、守田美奈子が自らの研究に関する発表を行い、代表者榊原哲也と分担者西村ユミが、方法に関するシンポジウムで提題を行ったが、270名を超える参加者があり、きわめて大きな反響があった。本研究の社会的意義の大きさを証する出来事として、ここに特記しておく。

(3) 総括

研究代表者および研究分担者の個別研究とそれに基づいた共同研究によって、医療、看護、社会福祉、理学療法各分野について、具体的な事象そのものの方から「ケアの現象学」を立ち上げ、「具体的展開」を図るという本研究の目的は、ある程度まで達成されたと思われる。研究分担者・村上靖彦の『摘便とお花見』(図書)ならびに同じく研究分担者・西村ユミの『看護師たちの現象学』(図書)は出版後、大きな反響を呼んでいるし、研究代表者・榊原哲也のドイツ現象学会での講演(学会発表)も高い評価を受け、同学会の学会誌に論文として掲載された(雑誌論文)。

また「ケアの現象学」の「組織化」についても、ある程度までは達成されたと考えられる。研究代表者・榊原哲也は、「ケアの現象学」の成果として、日本腹膜透析医学会で発表を行ったが(学会発表23)その内容は、もともと腹膜透析のケアの現場での調査を踏まえたものであり、その成果が現場に還元されつつある。学会での発表を受け、榊原はさらに、透析ケアを主題とするジャーナルから執筆依頼を受け、すでに投稿済みであり、理論と実践とをつなぐ「組織化」も、限られた範囲においてではあるが、ある程度達成されたと言えるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計23件)

Tetsuya Sakakibara, The Intentionality of Caring, Alessandro Salice (ed.), *Intentionality. Historical and Systematic Perspectives*, Philosophia Verlag 査読無(依頼論文) 2012, 369-394.

Tetsuya Sakakibara, Phenomenological Research of Nursing and Its Method, *Schutzian Research*, 査読有, Vol. 4, 2012, 133-155.

Yasuhiko Murakami, Le passe imaginaire pour un bebe avorte et l'appel chez Maldiney, *Annales de Phenomenologie*, 査読有, vol. 12, 2013, 237-254.

村上靖彦、透析室における「見える」もの——規範の空間論、人間科学研究科紀

要、査読無、39巻、2013、295-314。
 村上靖彦、抗がん剤の存在論—がん緩和専門看護師へのインタビューから、現象学年報、査読無、28号、2012、23-32。
 浜過辰二、現代日本における死をめぐる状況、玉川大学人文学研究センター編『Humanitas』、査読有、4号、2013、162-173。
 西村ユミ、現象学的研究の多様性と普遍性について、日本看護研究学会雑誌、査読無、35(1)巻、2012、37-39。
 西村ユミ、「音」の経験と看護実践の編成、現象学年報、査読無、28号、2012、1-11。
 小林道太郎、経験を伝える—現象学からみた経験の複雑さについて、日本糖尿病教育・看護学会誌、査読無、17(1)巻、2013、53-55。
 Takahiro Nishimura, The Earthquake Disaster is Trying Us: Thinking About the Disaster, Within the Disaster, World Association For Medical Law, 査読無(依頼論文), Vol. 4, 2012, 5-7。
 福田俊子、『素人性』によって生成される実践 - 初学者の「ふりまわされる」体験から見えてくるもの - 、聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要、査読有、11巻、2013、1-12。
 和田渡、山本泰三、隅田悦子、阪大学学習支援室の活動と今後の展望、阪南論集、査読無、49(1) 2013、65-71。
 浜過辰二、ケアの現象学に向けて 現象学の可能性をめぐって(二)、哲学論文集、査読有、49号、2013、109-126。
 村上靖彦、ローカルでオルタナティブなプラットフォーム 助産師Eさんと現象学的倫理学、現代思想、査読無、41(11) 2013、152-165。
 Yasuhiko Murakami, L'epoque du futur dans le soin des cancers de l'enfant, Annales de phenomenologie, 査読有, 13, 2014, 181-210。
 近田真美子、関係性をつくる 重度の精神障がい者の地域生活を支える看護実践から、現代思想、査読無、41(11) 2013、126-136。
 小林道太郎、ケア倫理は看護倫理にどう貢献しうるのか：ケアの諸局面の倫理的要素から、日本看護倫理学会誌、査読有、6巻、2014、20-29。
 Tetsuya Sakakibara, A Phenomenological Study on Caring for People with Suicidal Inclinations, Kwok-ying Lau / Chung-Chi Yu (Eds.), *Border-Crossing, Phenomenology, Interculturality and Interdisciplinarity* (査読有), Königshausen & Neumann, Würzburg, 2014, 159-170。
 Tetsuya Sakakibara, Die Intentionalität der Pflegehandlung, *Phänomenologische*

Forschungen, Jahrgang 2013, Soziale Erfahrung, Felix Meiner Verlag, Hamburg, 2013, 249-265。

守田美奈子、急性期病棟での緩和ケア、査読無、看護研究、47巻、2014、646-657。

- 21 村上靖彦、精神看護における接遇についての一考案 看護師へのインタビューに基づく現象学的な質的研究、大阪大学大学院人間科学研究科紀要、査読無、vol.41, 2015, 43-60。
- 22 福田俊子、ソーシャルワーカーの基盤を形成する臨床体験の構造 第1報、聖隷社会福祉研究、査読有、7号、2015、14-25。
- 23 近田真美子、あっと驚く ACT です—暮らしを支えるってこういうことだったのね、精神看護、査読無、18(1)号、2015、2-26。

〔学会発表〕(計37件)

Tetsuya Sakakibara, The Intentionality of Caring, The 5th Biennial Meeting of the Phenomenology for East-Asian Circle (PEACE), September 23rd, 2012, Peking University (Beijing, China)。

榊原哲也、患者を個として見るとはということか—地域と個に根ざした包括的ケアへの現象学からのアプローチ—、日本赤十字社医療センター教育講演会(招待講演)、2013年3月27日、日本赤十字社医療センター(東京都)

Yasuhiko Murakami, Absolute Past for an Aborted Baby, The 5th Biennial Meeting of the Phenomenology for East-Asian Circle (PEACE), September 23rd, 2012, Peking University (Beijing, China)

Yasuhiko Murakami, La formation du sujet dans le soin palliatif, Seminaire de recherche et de traduction Henri Maldiney (A l'initiative de l'equipe ERRAPHIS et du Programme Europhilosophie)(招待講演), June 1st, 2012, Toulouse University(France)

西村ユミ、身体性と看護実践、第13回日本赤十字看護学会学術集会(招待講演) 2012年6月17日、長野県看護大学(長野県)。

西村ユミ、現象学と看護研究について—データの解釈を中心に、京都大学大学院医学研究科(招待講演) 2012年7月31日、京都大学(京都府)

小林道太郎、経験を伝える—現象学からみた経験の複雑さについて、第17回日本糖尿病教育・看護学会(シンポジウム1) 2012年9月29日、京都国際会館(京都府)。

福田俊子、精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの自己生成プロセスに関する研究 - 変容の基軸及び発達段階における専門職業的自己生成プロセス

スの特徴 -、日本社会福祉学会第 60 回
秋季大会、2012 年 10 月 21 日、関西学院
大学。

Tetsuya Sakakibara, Die Intentionalitaet der
Pflegehandlung, Internationale Tagung des
Husserl-Archivs Koeln im Zusammenarbeit
mit der Deutschen Gesellschaft fuer
phaenomenologische Forschung (招待講
演), 2103.09.27, Universitaet zu Koeln,
Germany.

西村ユミ、榊原哲也、自分の実践のも
と：顧慮的気遣いの構造、第 6 期第 6 回
「ケアの現象学」研究会、2013 年 12 月
21 日、大阪医科大学(大阪府)。

西村ユミ、病棟の実践を身体化する構造
——新人看護師の経験に注目して、第 23
回日本保健科学学会学術集会、2013 年
10 月 5 日、首都大学東京(東京都)。

西村ユミ、医療実践における患者理解、
第 45 回日本医学教育学会大会(招待講
演)、2013 年 7 月 26 日、千葉大学(千
葉県)。

Shinji Hamauzu, Caring und
Phaenomenologie - Aus der Sicht von
Husserls Phaenomenologie der
Intersubjektivitaet, Internationale Tagung
des Husserl-Archivs Koeln im
Zusammenarbeit mit der Deutschen
Gesellschaft fuer phaenomenologische
Forschung (招待講演), 2103.09.28,
Universitaet zu Koeln, Germany.

Yasuhiko Murakami, Temporalite et
spatialite inconscientes de l'action,
COLLOQUE INTERNATIONAL
Approches phenomenologiques de
l'inconscien (招待講演), 2013.5.16-17,
Univ. Liège & Univ. Louvain-la-Neuve,
Bergium.

村上靖彦、主体形成とローカルな制度創
設、第 20 回多文化間精神医学会学術総
会(招待講演) 2013 年 6 月 14 - 15 日、
自治医科大学(栃木県)。

村上靖彦、精神看護 A さんの語りから、
日本現象学社会科学学会シンポジウム(招
待) 2013.11.30-12.1、東洋大学(東京都)。

村上靖彦、看護師が経験する死、日本宗
教哲学学会シンポジウム(招待) 2014.3.
22、京都大学(京都府)。

福田俊子、「素人性」によって生成され
る実践—初学者の「振り回される」体験
から見えてくるもの—、日本社会福祉学
会、2013 年 9 月 21 ~ 22 日、北星学園大
学(北海道)。

前野竜太郎、重症心身障害児・者に理学
療法を行う意味—理学療法における間
身体性の構造—、第 32 回日本医学哲学・
倫理学会大会、2013 年 10 月 19 日、大阪
歯科大学樟葉学者(大阪府)。

前野竜太郎、死を受け入れながらも終末
期医療を拒んだ家族の看取り—そのひ

とらしい最後を迎えるために家族とし
てできるケア、第 37 回日本死の臨床研
究会年次大会、2013 年 11 月 3 日、島根
県立産業交流会館(島根県)。

21 榊原哲也、クリティカルケアへの現象学
的アプローチ、第 10 回日本クリティカ
ルケア看護学会学術集会(招待講演)、
2014 年 5 月 24 日、名古屋国際会議場(愛
知県)。

22 Tetsuya Sakakibara, Phenomenology of
Caring in the Light of Husserl's Analyses,
International Conference "Phenomenology
as a Bridge between Asia and the West:
Ethics, Reason, and Culture" (招待講演),
14 June 2014, National Sun Yat-sen
University, Kaohsiung, Taiwan.

23 榊原哲也、「あなたらしさ」を支える患
者指導への現象学的視点、第 20 回日本
腹膜透析医学会学術集会(招待講演)、
2014 年 9 月 6 日、山形国際ホテル(山形
県)。

24 榊原哲也、フッサーとハイデガー——
ケアという事象をめぐる——、ハイデ
ガー・フォーラム第 9 回大会、2014 年 9
月 21 日、東洋大学(東京都)。

25 西村ユミ、看護師に学ぶ協働実践の知
——現象学と看護学の対話から、日本保
健医療社会学会 2014 年度第 2 回定例会
(関西)招待講演) 2015 年 2 月 28 日、
大阪市立大学梅田キャンパス(大阪府)。

26 西村ユミ、現象学的研究——考え方と方
法、第 11 回医療看護研究会(招待講演)、
2015 年 3 月 6 日、順天堂大学医療看護学
部(千葉県)。

27 守田美奈子、緩和ケアと現象学、榊原・
松葉科研合同シンポジウム「現象学的看
護研究—方法と実践」、2014 年 12 月 21
日、東京大学(東京都)。

28 Shinji Hamauzu, From my experience of
having lost two mothers - On dying after
living with dementia from a second-person
perspective of Japanese philosophical
researcher - (招待講演), Uppsala
University, Centre for Gender Research,
2014.10.10., Uppsala University, Sweden.

29 Shinji Hamauzu, Dementia as a sickness of
interpersonal relationship, International
conference in Norrkoping "Life with
Dementia: Relations" (招待講演),
2014.10.15., Linkoping University,
Norrkoping, Sweden.

30 Shinji Hamauzu, A Comparative Inquiry
into "Advance Decisions" in Japan,
Germany and the UK, Medical Humanities
Seminar Series Spring 2015, The Body:
Health, Wellbeing and Vulnerability (招待
講演), 2015.02.18., University of Hull, UK.

31 Yasuhiko Murakami, L'apport de la methode
lacanienne a la recherche qualitative
phenomenologique, Colloque

- Phenomenologie de l'inconscient (招待講演), 2015年03月19日、カレル大学(チエコ共和国)。
- 32) Yasuhiko Murakami, L'interruption de l'imagination dans le soin des cancers de l'enfant. , Soiree d'etude sur les soins palliatifs --Accompagner un enfant en fin de vie (招待講演), 2015年03月27日、トゥールーズ大学(フランス)。
- 33) 村上靖彦、この世界に災害とか起きたり何もなくなったときに、私の手だけ、榊原・松葉科研合同シンポジウム「現象学的看護研究—方法と実践」、2014年12月21日、東京大学(東京都)。
- 34) 村上靖彦、看護師の実践、看護師の語り、山梨看護学会(招待講演), 2014年12月13日、山梨県看護協会(山梨県)。
- 35) Yasuhiko Murakami, La spatialisation de la vie et les soins infirmiers dans un hopital psychiatrique au Japon, International Conference: Chora. Elements pour une nouvelle phenomenologie de l'espace(招待講演), 2014年05月14日—16日、ルーヴァン大学ヘントキャンパス(ベルギー)。
- 36) 福田俊子、「素人性」によって生成される実践、日本看護学教育学会(招待講演) 2014年8月26日~8月27日、幕張メッセ(千葉県)。
- 37) 小林道太郎、実践の中の共同行為による伝達：一病棟看護師の語りから、第Ⅱ期第9回「ケアの現象学」研究会, 2014年10月5日、浜松駅前ビル(静岡県)。

〔図書〕(計10件)

- 村上靖彦 他、河合教育文化研究所、臨床哲学の諸相「自己」と「他者」、2012、265。
- 村上靖彦、医学書院、摘便とお花見：看護の語りの現象学、2013、416。
- 村上靖彦 他、玉川大学出版会、精神医学と哲学の出会い 脳と心の精神病理(中山剛、信原幸弘編著)、2013、264。
- 西村ユミ 他、へるす出版、「生きるからだ」に向き合う 身体論的看護の試み(佐藤登美との編著)、2014、208。
- 榊原哲也、浜渦辰二 他、臨床哲学とは何か 臨床哲学の諸相(木村敏・野家啓一監修) 河合文化教育研究所、2015、287。
- 西村ユミ、青土社、看護師たちの現象学 協働実践の現場から、2014、284。
- Yasuhiko Murakami 他、OLMS, Approches phenomenologiques de l'inconscient (Maria Gyamand, Delia Popa (ed.)), 2015, 282.
- Yasuhiko Murakami 他, P.I.E. Peter Lang, La portee pratique de la phenomenologie (Delia Popa, Benoist Kanabus, Fabio Bruschi (ed.)), 2014, 288.
- Yasuhiko Murakami 他, Seli Arslan, Soins et

fin de la vie - Pour une ethique de l'accompagnement (F. Bastiani, M. Saint-Jean (ed.)), 2014, 192.

西村高宏 他、大阪大学出版会、哲学カフェのつくりかた(鷺田清一監修) 2014、344。

6. 研究組織

(1)研究代表者

榊原 哲也 (SAKAKIBARA, Tetsuya)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号： 20205727

(2)研究分担者

西村 ユミ (NISHIMURA, Yumi)
首都大学東京・健康福祉学部・教授
研究者番号： 00257271

守田 美奈子 (MORITA, Minako)
日本赤十字看護大学・看護学部・教授
研究者番号： 50288025

和田 渡 (WADA, Wataru)
阪南大学・経済学部・教授
研究者番号： 80210988

浜渦 辰二 (HAMAUZU, Shinji)
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号： 70218527

村上 靖彦 (MURAKAMI, Yasuhiko)
大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授
研究者番号： 30328679

福田 俊子 (FUKUDA, Toshiko)
聖隷クリストファー大学・社会福祉学部・
准教授
研究者番号： 20257059

西村 高宏 (NISHIMURA, Takahiro)
東北文化学園大学・医療福祉学部・教授
研究者番号： 00423161

近田 真美子 (KONDA, Mamiko)
東北福祉大学・健康科学部・講師
研究者番号： 00453283

小林 道太郎 (KOBAYASHI, Michitaro)
大阪医科大学・看護学部・講師
研究者番号： 30541180

前野 竜太郎 (MAENO, Ryutaro)
聖隷クリストファー大学・リハビリテーション学部・准教授
研究者番号： 50347184
(平成24年4月~平成26年3月)